

佐賀西高だより

URL <https://www.education.saga.jp/hp/saganishikoukou/>

学校だより 第131号
令和7年1月14日
佐賀西高等学校
佐賀市城内一丁目4番25号
電話番号(0952)24-4331
発行・編集 広報研修部

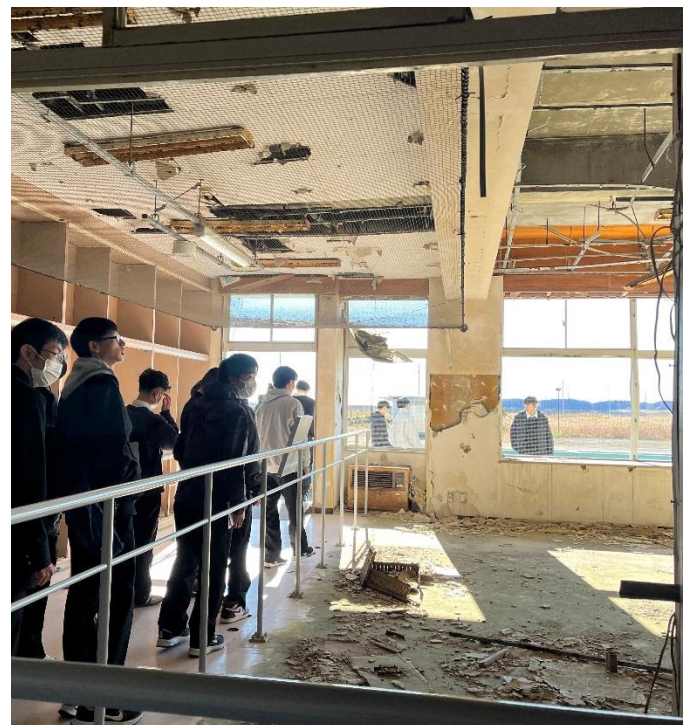
修学旅行

12月17日(火)～20日(金)、2年生は茨城・福島・千葉・東京へ3泊4日の修学旅行に行きました。もちろんディズニーランドではおもいっきり楽しんでいましたが、福島での震災学習や東京での都内自主研修も、学びの多い、印象に残るものになったようです。新たな視点を得た2年生の今後に期待します。以下、✿は生徒たちの感想です。

✿私の中で一番印象に残っているのは、福島県双葉町・浪江町でのフィールドワークです。原発の事故によって汚染された影響で、バリケードをつけられ、入ることのできない家や道を間近に見て、言葉では言い表せないほどの衝撃を受けました。震災から十年以上経た今でも自分の故郷に帰れない被災者の方を思うと、胸が苦しくなります。一生忘れられない経験をすることができました。

✿東京ディズニーランドを、友達はマウンテン系に乗ったらしいけど、私はそういうのは無理なので、一人で回りましたが、意外と楽しかったです。ホーンテッドマンションやハニーハント、美女と野獣など有名どころはだいたい乗ることができたのでよかったです。ただ、一人で回ると待機時間に代わってくれる人がいないので、脚がとても痛くなったのがつらかったです。

✿最終日、私は誰よりも東京を楽しんだ自信がある。皆は浅草や原宿などに行ったとの話であったが、私はポケモンセンターとニンテンドウアウトウキョウ、アニメイト秋葉原店を訪れた。財布のこともなんて考えずにショッピングをエンジョイした。また、撮り鉄もした。秋葉原でメイドカフェに行けなかったのが唯一の後悔である。また次の機会に。





全国総文祭出場内定

12月14日(土)、福岡市民会館で全九州高校総文祭弁論部門が開催されました。本校からは2年7組の田中響貴さんが出場しました。以下はその弁論原稿です。田中さんは来夏に行われる全国総文祭への出場が内定しています。



数字は僕を書く

「理系のくせに」これは僕が中学生の頃から色々な人に言われてきた言葉だ。

僕は進学する高校を決めるのと同時に、理系に進むことも決めた。進む先を理系に決めた理由は様々だが、一番に挙げるとしたら、医者という自分の夢を実現させるためだろう。

ただ、当時の僕には致命的な弱点があった。それすなわち、「数学」だ。テストの点数は振れ幅が大きく、得意分野と苦手分野がはっきり分かれており、二つ以上の分野が入り混じった問題ともなると、訳が分からない。数学という生き物のように姿を変える存在が苦手だった。テストでひどい点数を取るたびに、友達や親に、「理系のくせに」とからかわれたものだった。悔しかった。少しでも克服するためにいざ数学を勉強しようと思っても、問題集を開けば、そこにあるのは、無機質に並んだ数字、何を言っているのかわからない日本語やアルファベット、そして、目をそむけたい記号の数々。どれだけやっても、ますます数学が苦手になる悪循環だった。

さて、中学校を卒業した僕は、得点源は国語と社会と英語、苦手科目は数学と理科という人間になっており、暇があれば、得意科目ばかり勉強していた。ただ、そんな生活にも終わりが訪れる。そう、高校生になったのだ。僕は理系に進むことを諦め、文系に進もうと密かに思っていた。しかし、その考えはすぐに覆される。高校に入学して出会ったのは、数学を心から愛する人たちだった。日々数学について論じあう友達や、数学への愛があふれた担当の先生方。そんな人たちに囲まれていると、いつの間にか数学と向き合うようになっていた。そして、二か月が経つ頃には、冗談抜きで、僕の数学への思いは百八十度変わったと言ってよい。

余談だが、先日、久しぶりに中学生のころ通っていた塾の友達と話したのだが、そこで僕は、「良質なオタク」という評価を受けた。訳が分からないのでどういふことか聞いてみると、彼曰く、社会のテスト中、彼が僕の答案をちゃっかり覗こうとしたとき、僕はずっとニヤニヤしていたらしい。実は、高校の同級生にも「なんでお前数学の授業中ずっとニヤニヤしてんの?」と言われたことがある。あまり想像したくないが、どうやら僕は好きなことをしていると、自然と笑ってしまうらしい。決して笑顔ではない。「ニヤニヤ」だ。ただ、他に害は及ぼさないで、「良質なオタク」と言われるのだろう。

話を戻すと、僕は数学を克服し、あろうことか、オタクのレベルになった。また、僕は数学を通して、苦手なものとの向き合い方を学んだ。苦手なものが急に得意になることはほとんどない。だからこそ、向き合う必要があるのだが、それは一人では難しい。周りに助けになる人がいてこそ向き合えるようになるのだろう。もちろん、僕にはまだ苦手なことが沢山あるが、周りの人の助けを借りながら、一つ一つ克服できるようになりたい。

実を言うと、最近また親から「理系のくせに」と言われるようになった。その理由は、僕が「あること」を信じているからだという。その「あること」とは、「占い」だ。確かに毎日の新聞の「今日の運勢」の欄は必ず見ており、朝の某テレビ番組の星座占いも欠かさない。妹がもう読まなくなった「ドキドキあなたの恋占い」の本は僕の部屋の本棚にある。ではなぜ、占いと理系が関係あるのだろうか。一般的に理系の人は、論理的、科学的に考えることが得意であるため、非科学的と言われる占いを信じない傾向にあるらしい。

しかし、占いの元となる占星術は、数学の理論を応用して生まれたものであり、かの有名なアルキメデスやケプラーも、影響を受けたものだ。そのように考えると、占いは全く非科学的なものではなく、数学的理論の上に成り立った、一種の学問なのだ。そう考えると、ますます数学が神秘的なものとして目に映る。

始めは無機質に並んでいるように見えた数字。しかし、0 から 9 のたった十個の数字が組み合わさって、この世界の理論を支配していると考えれば、実に神秘的だ。目を背けていたルートの記号のおかげで、中途半端な数にも、明確な定義を与えることができ、永遠に伸びる数直線の隙間を埋めることができた。

数学は、この短い時間で確かに僕を変えた。僕を形作ったと言っても過言ではない。どんな人にも、その人を形作ったものが必ずあるはずだ。もちろん皆さんにも。一度、胸に手を当ててそのことを考えてみると、ぼんやりとしている今の自分の輪郭が少しはっきりしてくるかもしれない。もちろん、それは学問に限った話ではないが、僕の場合は、十個の無機質なただの数字が、今の僕を形作ったと言える。

数字が、僕を書いたのだ。

クラスマッチ

12月4日（水）、1・2年生はクラスマッチを行い、バレーボールに汗を流しました。各学年の試合が終わった後、優勝クラスの生徒と先生方有志でエキシビジョンマッチを行いました。生徒会役員のみなさん、企画・運営ありがとうございました。



*本校ホームページの中の「イベントギャラリー」に各行事の写真を掲載しておりますので、是非ご覧ください。
*学校ホームページの「お知らせ」に「年間行事予定」を掲載しています。

